京都大学新聞
学生諸君
京都大学新聞社
京都大学構内
（761）2054 直通
（751）2111（内線2571）
編輯・京都3909
（1部30円　1年間1,000円）

社説

部落の完全解放に向け 狭山再開公判闘争に結集せよ

三百万部落民・全労働者人民の 狭山差別裁判糾弾闘争

死活をかけた闘いとして

「鉄の三角同盟」の復権へ

重層的な共同戦線

階級的団結を形成せよ

来るべき一月二十日、新鮮な民同の旗ちぎれ矛盾にさらされ、新鮮な民同の旗ちぎれ矛盾にさらされ、

クラスコンパの御相談承ります
11月中一割引（会員のみ）
割烹　きよす
スキヤキ・ナベ料理一切
今町☎今出川上ル
TEL（231）1306 1275 5178 1111 1111 231

十一月祭特集号
■秋の読書特集
■七三年就職戦線総括
3面 ▼全国水平社の歴史と労働者との共闘　師岡佑行
（第2回）
4面 ▼社会科学の方法と認識論　今村仁司
5面
7面 ▼奉励のたより
8面 ▼就職戦線総括

蒼樹書房　東京・新宿区東大久保2－51　☎(03)-(203)1234／振替東京126764

〈刊行にあたって〉
本書は、「人間の歴史」の第一巻として刊行されました。「画」的な発展体制がようやくととのいつつある出版界の現実のなかで、大きな強み はもってていえば、少部でもこの出版社の、自分の力で始めなければ、少部でもこの出版社の、自分の力で始めなければ、少部でもこの出版社の、自分の力で始めなければ

学部長「警告」に答える

御用自治会化攻撃粉砕！

10・29声明

経済学部同好会常任委

竹本部長の「警告」は、十月二十日、「以下の声明」を発表して、この集会に対する弾圧を言ってきた。十一月五日の集会に対する弾圧の意志を示すものである。

経済学部同好会常任委員は、十月二十日、「以下の声明」を発表して、この集会に対する弾圧を言ってきた。十一月五日の集会に対する弾圧の意志を示すものである。

竹本部長の「警告」は、十月二十日、「以下の声明」を発表して、この集会に対する弾圧を言ってきた。十一月五日の集会に対する弾圧の意志を示すものである。

経済学部の多くの友人諸君！

我々同好会常任委員は、竹本部長の「警告」を受けて、十一月五日の集会を開催することを決定しました。

竹本部長の「警告」は、「学生の自治活動に対する不当な介入」であり、「学生の自治活動を圧殺する」ものであり、「学生の自治活動を不当に制限する」ものであり、「学生の自治活動を不当に制限する」ものであり、「学生の自治活動を不当に制限

全国水平社の歴史と労働者との共闘

―高松差別裁判糾弾闘争・労農水三角同盟

師岡佑行

当時の代表的闘いであった、福岡連隊糾弾闘争、北中皮革労働争議、福岡連隊の歴史的意義、全国水平社青年同盟の結成、反軍闘争の展開、全国水平社青年部の歴史的意義、農民の共闘の推進者などを考えることの意味を考えるであろう。（編集部）

軍隊内差別との闘いを訴えるポスター（1928年）

全国水平社 第四回大会

この全国水平社第四回大会で、全国水平社青年同盟（略して全青同）という組織が生まれてきたのである。本格的に日本で最初の政治的青年組織として、全青同は生まれてから九二年、九三一年と、二年たって、熊耳峰夫において大会が開かれた。ここで、全国水平社青年同盟大会が開かれたのが、第四回大会である。

この全国水平社第四回大会で、全国水平社青年同盟という組織が生まれてきたのである。本格的に日本で最初の政治的青年組織として、全青同は生まれてから九二年、九三一年と、二年たって、熊耳峰夫において

社会科学の方法と認識論

河上肇のデスマスク

…【1】…

社会科学、とりわけマルクス主義の説かるる社会科学が再び盛況の波間に入ったかのごとき感相である。実際、戦後間もなく、社会科学は、一時、ジャーナリズムの表面から、ほとんど姿を消してしまったかのごとき状況であった。しかし、それ以来、もう三年余経過しているが、今日、ふたたび、社会科学は、ジャーナリズムの表面に、ときどき、顔を出すようになってきている。

この社会科学の再興の原因は、いろいろ考えられるであろう。戦後、社会科学の研究者たちが、ようやく、研究の成果を、まとめ、発表する段階に達したこと、戦後、社会科学の研究者たちが、ようやく、研究の成果を、まとめ、発表する段階に達したこと、戦後、社会科学の研究者たちが、ようやく、研究の成果を、まとめ、発表する段階に達したこと、などの理由も、あるであろう。

しかし、私は、この問題を、もっと、根本的に、考えてみたいと思う。

社会科学は、人間の、社会的、歴史的、生活の、ある一面を、対象として、研究する、学問である。人間の、社会的、歴史的、生活の、ある一面を、対象として、研究する、学問である。

激励のたより

9・21革マル派による編集室襲入と御一、殴打そして文書で「無断に侵せ」「厳重に抗議」われわれはこの覚書られたこれまでの活動の展開を踏まえつつ、革マル派による「暴力」の問題を明確にするものであるとして、これらの「暴力」は、

・21の事態に対する原因究明と責任追及を通じて、われわれは革マル派に見せつけてやろう思わせるものであるとして、9・21以降、「暴力」に対する抗議と責任追及を通じて、この覚書を活用し、あわせて、全国の同志諸団体・個人の「暴力」への抗議・糾弾への意思表示を求めるものである。

9・21以降、「暴力」に対する抗議と責任追及を通じて、この覚書を活用し、あわせて、全国の同志諸団体・個人の「暴力」への抗議・糾弾への意思表示を求めるものである。

（編集部）

自らの存在に迫れ

今回の編集室襲撃は、現在の運動体のあり方の問題を提起しているように思える。

ベトナムの反戦運動は、現在の運動体の内部に侵蝕しようとする等、闘い方にいろいろ考えられる。

ある人は、これらの現実に、かつてのような熱狂的な運動がないとか、運動体の内部に侵蝕しようとする等、闘い方にいろいろ考えられる。

もっとも、これらの現実は、かなりまじめに考えなければならないものであろうと、それはなぜか、それは、これらの現実を、自己の問題として、それぞれの運動体の内部に侵蝕しようとする革マル派の攻撃としてとらえるべきであるからである。

ここで、われわれは、それぞれの運動体の内部に侵蝕しようとする革マル派の攻撃の意図はどこにあるのか、それを問題にしなければならない。

革マル派は、これまでの大衆運動の内部に侵蝕しようとする攻撃を、一つの「戦争」の問題として、それぞれの運動体の内部に侵蝕しようとする革マル派の攻撃を問題にしてきた。

ここで、われわれは、それぞれの運動体の内部に侵蝕しようとする革マル派の攻撃の意図はどこにあるのか、それを問題にしなければならない。

革マル派は、これまでの大衆運動の内部に侵蝕しようとする攻撃を、一つの「戦争」の問題として、それぞれの運動体の内部に侵蝕しようとする革マル派の攻撃を問題にしてきた